

平成19年第4回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成19年4月10日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成19年4月10日	開会 1時30分 閉会 2時47分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	委員 長 伊東 浄堯 委員長職務 代理者 亙理千鶴子 委 員 菊地 邦夫	委 員 伊藤 恒子 教 育 長 谷垣十四雄	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 本多 龍雄 生涯学習部長 石川 明 学務課長 福田 協司 庶務課長 北村 高 指導室長 富士道正尋 指導主事 風見由起夫	生涯学習課長 伊藤 信之 兼生涯学習係長事務取扱 公民館長 中嶋 登 図書館長 田中 肇 スポーツ振興課長 林 文男 庶務課長補佐 淀川 章 兼庶務係長	
調 製	主 任 山内 和子		
傍聴者人数	3名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議案第 1 4 号	「小金井市子ども読書活動推進計画」の実施状況についての陳情書
第 3	報 告 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成 1 9 年度学級編制について 2 寄附の収受について 3 教育課程の届出報告及び小・中学校の年間予定について 4 小・中学校教育管理職の異動について 5 図書館別館の使用要綱について 6 「小金井市における今後の特別支援教育のあり方について（答申）」について 7 その他 8 今後の日程について

開会 午後1時30分

伊東委員長 ただいまから平成19年第4回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程第1、会議録署名委員の指名。本日の会議録署名委員は、互理職務代理者と菊地委員に願います。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

伊東委員長 日程第2、議案第14号、「小金井市子ども読書活動推進計画」の実施状況についての陳情を議題とする。

本件は陳情者の発言の申し出があるので、委員会協議会を開催するため、しばらく休憩する。

休憩 午後1時31分

再開 午後1時50分

伊東委員長 委員会を再開する。

事務局側から発言があれば、どなたかおられたら発言をお願いしたいと思う。

石川生涯
学習部長 本日の教育委員会に提出されている陳情書でも既にお話があったかと思うが、小金井市子ども読書活動推進計画の概要について簡単にご説明申し上げます。

小金井市教育委員会では、子どもの読書活動の推進に関する法律により策定された国の基本計画及び都の推進計画をもとに、小金井市の子ども読書活動の推進状況等も踏まえ、小金井市子ども読書活動推進計画を平成16年3月に策定している。本計画の策定に当たっては、図書館が中心となり、子どもの読書にかかわりのある市内9課により設置をした、小金井市子ども読書活動推進計画市内検討委員会で検討した素案をもち、小金井市図書館協議会にお諮りし、また、市民の皆さんに公開してご意見をいただき、向こう5年間の小金井市の読書活動に関する施策の方向性や取り組みについてまとめたものである。

施策の体系であるが、家庭・地域、図書館、学校、保育園・児童

館、その他施設、図書館などの連携・協力、啓発広報等の推進の6分類とさせていただいており、それぞれに施策項目を立て、達成目標年次を設けている。5カ年計画の中ごろの節目に当たる平成18年7月には、計画の進捗状況の集約を行い、計画策定当初には実施、継続であったものを、より具体的に明記させていただきながら、例えば、実施項目について言えば、地域読書ボランティアの育成及び連携・協力については、本館児童室でのおはなし会へのボランティア連携を試行的に導入しており、また、図書館の各種行事については、小学校3年生を対象とした図書館見学や、東分室での1日図書館員の実施を盛り込むなどの中間報告をさせていただいたところである。

本計画も残り2年であるが、掲げられた項目全般につき、引き続き庁内関係課の検討を踏まえ、また、小金井市図書館協議会の場で検証をお願いしつつ、子どもの読書活動推進に向けて努力してもらいたいと思っている。

以上である。

伊東委員長

ほかにあるか。補足の説明のある方はいないか。よいか。

それでは、委員さんから、質問、またご意見をちょうだいしたいと思う。

亙理委員長
職務代理人

まず、市の図書館協議会について詳しく知りたいが、委員の構成であるとか、任期であるとかを、ちょっと説明、お願いします。

田中図書館長

図書館協議会については、図書館法により、設置しなければならない機関ということではないが、設置できる機関ということで、小金井市においては設置をしている機関である。

構成メンバーについては10名になっている。メンバー構成であるが、市内に設置された学校が推薦した学校代表の方1名、市内の社会教育関係団体が推薦した団体の代表者1名、社会教育委員1名、学識経験者4名以内、市民3名以内ということで、計10名となっていく。

内容としては、図書館長の諮問機関という性格を持っているところである。通常であると年に3回開催をしている。この読書活動推進計画策定に当たっては、回数を増やしていただき、5回という回

数でお願いしているが、通常は3回ということをお願いしている。

読書活動推進計画については、この計画作成の中で、この計画について検証していただくという位置づけをされており、引き続き図書館協議会のほうで検証をお願いしている経過もある。

以上である。

伊東委員長 よろしいか。

亙理委員長
職務代理者 ありがとう。

伊藤委員 陳情、陳述の中で、図書活動推進につき、PRの不足のご指摘があったが、図書館では、現在、子どもの読書活動等についてどのようなPRが行われているか。

田中図書館長 図書館では、先ほど市報やホームページ等でPRが足りないということを申されていた。確かに市報等で読書活動推進計画という文言はないが、ただ、児童の行事を本に結びつけるために頻繁に実施しており、そういった中で読書活動が普及していくということをやっている。

具体的に申し上げますと、読書の日については、例えば、自然、緑、アースデーなどをテーマとした児童本のコーナー設置等を考えている。あと、記念日の行事としては、秋の読書週間等については、毎年実施している図書館の講演会があるが、これは東分室を会場にして、読書普及をテーマとした講演会の実施等を考えている。今後、これについては、詳細を煮詰め、市報や図書館ホームページ等でPRをしてまいる。

また、必要に応じて、子ども向けにテーマ図書等を展示しているところである。

以上である。

伊藤委員 ありがとう。

伊東委員長 陳情書の中に、市報・ホームページ等を通じてという部分で、ホームページの、インターネットを通じて、今まではどうだったか。

田中図書館長 調べた関係では、ホームページ等で、読書活動推進計画の進捗状況についてのPRをしている。また、全体的に図書館の行事を進めていく中で、子どもさんへ読書の楽しさを知っていただくというふうなことでPRしていくと考えている。

伊東委員長 わかった。
ほかに何かご質問、あるか。

菊地委員 学校図書と市の図書館と、ちょっと構成が違うと思う。学校図書の内容の選定と、図書館の図書の選定は、どういう形で行われているか。

伊東委員長 学校図書の選定と、市の図書館のほうの選定について、どなたかご説明。指導室長、学校図書の選定ということで、お話しいただきたいと思う。

富士道 指導室長 学校図書の選定というご質問があった。これは各学校によって多少異なるが、必ず学校には図書を担当する校務分掌、係がある。そこが選定の中心となっている。

具体的な形で申し上げますと、例えば小学校であると、図書館部、図書館の担当する分掌が、貸し出し記録、子どもたちがどういう本を読んでいる傾向があるのか、そういうものを記録から把握をしたり、また、アンケートをとったり、その他調査を行う。また、教員のほうは、教員向けの購入希望調査等の実施をして、現状把握をしている。その後、担当者、また担当部が、実際には図書展示会等に行きながら、購入リスト等を作成して、その案をもとに、学年会、また全体の中で検討しながら調整を行い、最終的には校長の判断で決定をして購入をしている。主に、1学期後半に行われているケースが多い状況である。

以上である。

伊東委員長 もう一つ、市の図書館のほうの購入……。

田中図書館長 市の図書館の本の選定方法であるが、これは各分室、2館あるが、

そこの分室から1名ずつ、選定担当の委員が、司書有資格者がやってきて、あとは児童室担当、参考資料室担当、あとは本館の一般室担当がそろい、奉仕係長が中心になり、毎週1回、選定を行っている。選定した結果をもち、図書館長の決裁をもって本を購入するということをやっている。本の選定に当たっては、TRCのほうで、膨大な本の資料がある。それを参考にしつつ、あと、書評、市民のニーズ、リクエスト、そういうものを踏まえた結果、蔵書構成を行っている。

以上である。

伊東委員長 よろしいか。

菊地委員 はい。

亙理委員長
職務代理者 ここ数年、どこの学校も図書室が非常にきれいになり、充実していて感心させられているところであるが、3ページにも、各校ともに平均約2,700余冊の図書資料が不足している。資料であるが、図書の充足率はオーケーということであるが、学校図書の充実については、最近どのようにしていらっしゃるか。お伺いする。

福田学務課長 ご質問いただいた学校図書の充実について、若干お話しさせていただきます。

小・中学校の学校図書については、文科省において、平成5年に学校図書館図書標準を設定し、学校の規模に応じた設備の目標がある。本市においても、標準に基づき、学校図書の整備を実施しているところであるが、文科の標準に対して、実際各校に整備されている学校図書の充足率を見ると、17年度の末であるが、小学校では110.8%、中学校で97.4%の状況にある。この充足率については、以前からご指摘があり、実は平成15年から18年までの4年間、学校図書の整備、4カ年計画ということで計画を立て、小・中とも、通常であると年間で700万ほどの予算であるが、それを4年間の中に1,600万ほどの予算を計上し、その充実に努めてきたところである。

また、委員のご質問の中で、分野別の図書について、基準より2,700冊ほどの不足があるというようなことであるが、これについ

ては、充足率としては分野別に分けると11ほどの分野がある。これは特に学校の場合であると、各学校の校長会の中で図書選択の基準をお持ちになって、各学校の中で図書の購入をしているわけであるが、分野別の11の中で、文学であるとか、絵本であるとか、その他の部分の書籍が多くある。その意味で、残りの哲学であるとか、総記であるとか、そういう部分の不足を足し上げると2,700冊という数字が出るかと思う。

私ども、教育委員会としては、各学校の中で独自の図書選定をされて、充足率110という形を出していただいているのかと、そのような理解をしているところである。

以上である。

亘理委員長
職務代理者

ちょっと無知で申しわけないが、教室の中に結構本をそろえている教室であるとか、寄附という言葉があるが、寄附であるとか、学級文庫という、ああいう扱いはどのようなものか。

福田学務課長

学級文庫の場合、私どもが聞いている限りでは、学校図書館から各学級に配置しているものもあるかと思う。あと、市の図書館と各学校の図書館との連携があり、さまざまな調べの学習であるとか総合的な学習の中で、図書館の配置している児童図書等を借り上げて勉学に使っていると、そのように聞いている。

以上である。

伊東委員長

よろしいか。

亘理委員長
職務代理者

はい。

伊東委員長

私もそれに関連して、陳情書の中の質問項目の4番目の下のほうに、今の、2,700余りの図書資料が不足していると。この下のほうに、C校では、3年間で2,654冊破棄し、F校では、3年間で36冊破棄したというような数字が出ているが、これはちょっと極端なので、説明していただければと思う。

福田学務課長

この数字は、私も調査の表を見て、確かにその差があった。私ど

もとしては、各学校の中では、図書の廃棄については、小・中の校長会の中で学校図書の廃棄基準というのを設けており、各学校のお考えの中での廃棄がされているのかと思う。廃棄数の違いがどのようなことなのか、申しわけない、私のほうも学校のほうから確認していないが、事実関係として、各学校のお考えの中で廃棄冊数の違いが出てきているのかなと、そんな思いがする。

伊東委員長 関連してもう一つ、12ページの資料の7の、学校図書館・分類別基準数と不足数の調査表というのがあるが、これは出どころはどこか。教育委員会のほうからでよいか。

福田学務課長 教育委員会のほうで毎年度、ちょうど私ども、今の時期に小・中14校に対して調査をしている。今だと18年度末の蔵書数、それから11分野の分野別の蔵書数を調べているが、その冊数をお使いになったのかと思われる。

伊東委員長 ここに二重丸が書いてあるが、この表をどう見たらいいのか説明していただきたい。

福田学務課長 充足としてかなりパーセンテージが高く、分野別のものがあるというような解釈であるか。他のものであると0.何%であるとか、少ない、分野別に見ると図書数がないかと思うが。

伊東委員長 十分足りているものもあれば、不足しているものもあるという一覧表ととらえればよいか。

福田学務課長 やはり先ほどお話ししたような形で、文学であるとか、絵本その他については充足が高いが、それ以外の分野のものは、やはりパーセントが低いことかと思う。

伊東委員長 先ほど指導室長のほうから、学校の施設については、アンケートとかやろうということなので、必要に応じて補足していくわけであるから、その学校、その学校で多少カラーが出るということによるしいか。

富士道 各学校で、小学校であると、例えば、総合的な学習の時間で、環境を主にやりたいというのであれば、当然それにかかわる本が増える年があるし、子どもたちの読書のスタートということで重視をしたいということであれば、絵本が増えていくこともあるし、さまざまな学校の子どもたちの実態、また学校がどういう方向に進んでいくのかという学校の経営方針を含めて、さまざまな学校のカラーがこういうところに出てくるんだろうと思う。いずれにしても、子どもの要望、そして学校長がどのような学校の経営方針でいくのか、そういうことを踏まえながら、学校長の判断で最終的には選択をしているものである。

伊東委員長 わかった。

谷垣教育長 図書基準をもとに決めるということはないか。

福田学務課長 やはり大もとは文科の標準だと思う。ただ、それぞれに先ほどお話しした小・中の校長会の中で、選択の基準と廃棄の基準をお持ちになっているので、やはり各学校ごとの違いが出てくるのかと思う。

伊東委員長 ほかにあるか。

伊藤委員 先ほど互理委員のご発言にもあったが、このごろ大変図書室が充実して、子どもたちにとってより学習しやすい環境になったかなというのを、学校を見て痛切に感じている。

先日、たまたま新聞を見ていたら、図書室、図書館で調べものをするときに、どういう本がいいかなと教えてくれる方や、相談に乗ってくれる人がいたほうがいいのかというようなことを質問した結果が出ていた。小学校では14%、中・高では5%が、そういう人がいたらいいなということで、そのコメントでは、そういう人がなかなか配置されないことがこのような結果になっているのではないかというコメントもあった。小金井では現実に司書が配置されているが、司書というか、非常勤であったり、補助員であったりという方がいらっしゃるが、現状、どのような配置状況になっているのか。それから、教員で司書資格を持った者がどのようになっているのか、その辺を教えていただきたい。

富士道
指導室長

学校図書館における関係であるが、図書館には、今、補助員という形で、週1回、委託であるが、人員配置をしている。これは、1日5時間で週1回ということで配置している。この打ち合わせ等の時間もすべて入っていて、これは専門の研修を受けた者が入っている。非常に子どもたち、また教員からも、専門性があるということで、高く評価をちょうだいしている。なお、これは単に図書の紹介をするだけではなく、さまざまなディスプレイをしていただいたりとか、どうやって図書館の環境をよくするか、そういうようなことも含めて、今仕事をしていただいている。

なお、司書教諭の配置であるが、現在、19年度であるが、小学校で35名、中学校で11名、計46名の、いわゆる司書教諭の免許状を取得した教員が在籍をしている。1校当たりであると、小学校では2名から6名、中学校では1名から4名で今配置している。以上である。

伊藤委員

ありがとう。

伊東委員長

ほかにあるか。

菊地委員

学校での、実際に児童、生徒の図書室の利用度、あるいは指導して、ある時間をとって、読書の時間をつくるとか、そういうような取り組みは各校によって違うのか。

富士道
指導室長

基本的には、例えば昼休みとか放課後等を開放し、自由に閲覧、また、貸し借り等をするような形の機会を設けている。また、国語科の授業や、社会科や理科、あるいは、総合的な学習の時間の授業の中で図書館を活用して調べ物をしている。また、読み聞かせも含めて、教育活動の中で活用していることが主である。

伊東委員長

ほかにあるか。

私のほうからもう一つ。この陳情書の2番の蔵書構成のところ、学習資料不足が蔵書構成の最大のポイントになっていると書いてあるが、図書館に行ってもそうである、例えば、緑分館に行っても、入りきれないぐらいの量があるような感じがするが、図書館長、な

りたてで、いろいろまだわからないこともたくさんあると思うが、まだまだ買えば入るのかどうなのか、廃棄してまた入れるとか、その辺はどうなのか。

田中図書館長 図書館全体の図書を見ると、今現在、42万冊、本がある。これは現在、分室も合わせて2,363平米しか広さが無い。この平米数でいくと、大体25万から30万冊ぐらいが適当な規模かと考えている。そうするとかなり本があふれているということになる。それで、適切な数でいくと、1平米当たり70冊から100冊ぐらいが適当かなと思っておるが、私どもの場合であると177冊ということで、かなり高密度化している。というのは、新しい本を買うと、どんどん本を捨てていかなければ次の本が入らない、要するに、新鮮な蔵書になかなか変わっていかないという現状がある。ご指摘があったとおり、絵本等は児童室の場合、充実はしているが、確かに学習指導室のコーナーについては本が山積み状態になっているので、入れかえると、今ある本を捨てて新しい本を入れることになってしまうので、これまたなかなか難しい状況が生じているところである。根本的には図書館自体が非常に狭いところに問題があるのかと認識している。

伊東委員長 ちょっと極端であるが、今、ここは本を読むということ、それから読み聞かせであるとか、活字に対する重要性ということもあるかもしれないが、例えば、今、辞書であると、簡単な、小さいコンピューターに入った辞書で、これで40冊分入っているとか、そういうもので調べれば簡単に調べられる時代になってきているわけである。例えば、百科事典など、過去にあるものが簡単にパソコンの中に入っている。そういう調べ学習という時代に来ているような気がするが、その辺は図書館長としてどんなふうなお考えをお持ちか。

田中図書館長 確かにパソコンで調べるという方法も一つある。ただ、本で調べた場合に、実際に手にとって、本をめくって、そのときにいろいろなものが目に入ってくるわけである。関連づけられていろいろなものを覚えられるという効果が本の場合にはある。それがやはり本の最大のメリットかと思っている。

伊東委員長 ありがとう。
ほかにあるか。

伊藤委員 ちょっとこの陳情書と外れてしまうかもわからないが、今、メディアの話が出たので。

子どもたちがどんな本というか、ものを図書館に求めるかという
と、おもしろい本が一番あれだが、半分以上の子どもたちがCDと
かDVD、そういったものを求めたりしているが、小金井の図書館
ではそういった施設というか、そういった方面の図書関係はどうな
っているか。

田中図書館長 図書の蔵書全体で言えば、CD、音楽関係については、今、収集
をしている。AV関係については手をつけていないところである。
ただ、図書館としては、情報発信の基地であるので、当然、そちら
の分野も充実していかなければいけないと考えているが、現状では
まだそういう段階である。

伊藤委員 今のお話の中で、情報の発信という言葉があったが、図書館は本
を貸し出すだけではなく情報の発信をしていく場所であると同時に、
いろいろな研修活動も必要だと思うが、どのような活動をして
いるか、もし例があったらお話ししたい。

田中図書館長 研修について言えば、19年度であるが、おはなしボランティア
養成のために、まだ経験されていない方を対象にした初級レベルの
方、あるいはレベルアップのためにおはなし会講座を計画している。
内容として、乳幼児対象のおはなし会であるとか、あとは絵本の読
み聞かせ、ストーリーテリング、ストーリーテリングというのは本
なしで読むお話、パネルシアター、ブックトーク、ブックトークと
いうのは本の紹介である。それから、絵本とか児童文学講座を予定
している。この中から適当なものを選んで、おはなし講座として実
施していきたいというふうな研修を考えている。

以上である

伊藤委員 ありがとう。

伊東委員長 ほかに、質問ではなく、ご意見があれば。陳情に対するご意見を
お願いしたいと思う。

ちなみに、今、予算的に図書館の図書購入予算というのはどのぐ
らいの数字になっているか。数字がわかれば、何年間か変化してい
く。先ほど学校のほうは出たが、図書館のほうは予算が出ていなか
った。お願いする。

田中図書館長 図書館の予算、平成17年度で3,400万ぐらいである。16年
度も3,400万である。それで、伸びは、若干伸びておる。ただ、
わずかな伸びであり、平成16年度及び17年度については、数字
を訂正させていただく。3,550万、18年度は3,728万、1
9年度については3,800万である。冊数自体が若干増加してい
るということである。

伊東委員長 それでは、ご意見、ちょうだいしたいと思う。

菊地委員 総括して、この陳情として、ごもつものところもあるし、すぐ
にできそうもないものも、どうしても予算とかあると思う。趣旨と
してはいいと思うが。

伊東委員長 ありがとう。
趣旨としてはいいというお話が出た。
ほかに何かあるか。

伊藤委員 私もそう思う。

伊東委員長 伊藤委員も。わかった。
私自身も、この陳情を通して大変いろいろな角度から勉強させて
いただいた。ただ、小金井市の図書館の特徴として、市内の大学と
の連携であるとか、そういうのも僕は大変評価すべきであるし、そ
の辺の蔵書も大いに利用できるということは大変ありがたいなど
は思っているし、それから、また、昨年度の末には、別館という形
で学習室もできた。これも古屋前図書館長が頑張っていたいただ
いおかげかなと思っている。しかしまだ、先ほど新しい図書館長から説

明があったが、実際には図書をもっと充実したくてもしようがないという物理的なスペースの問題、そうすると、新しい図書館を建てなきゃしようがないじゃないかなと盛んに思ったわけだが、それから、私流に考えれば、インターネットを活用するような情報発信基地みたいな図書館も必要だろうと思うし、小さい子が、子育てしながら、親子で一緒に本を読むコーナーができるようなゆとりのある図書館がやはり求められてくるなと思う。

やはり市民が、皆さんで集まってそこで図書に、活字を通して勉強することももちろんであるが、いろいろな形でこれから要求がどんどん増えていくんじゃないかと思っている。

今、ここで陳情を出していただき、改めていろんなことがわかった。すぐできることもあれば、菊地委員が言われたようになかなかできないこともあるということで、採択か不採択かというよりも、この意思を酌み取りながら趣旨採択という形にしていきたいと思うが、いかがか。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

伊東委員長 それでは、趣旨採択ということでご異議ないようであるので、「小金井市子ども読書活動推進計画」の実施状況についての陳情については、趣旨採択ということで、改めてお聞きするが、異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

伊東委員長 異議なしと認め、趣旨採択ということで決定させていただく。
 日程第3、報告事項に移る。順次担当の方からご報告をお願いします。

福田学務課長 お手元に報告事項1に資料をご配付させていただきました。表面に19年度学級編制状況、裏面には私立学校等に入学した新一年生調べを掲載してある。

 表面の19年度学級編制状況であるが、前年度と比較すると、小学校では普通学級で児童数は変わっていない。156学級から152ということで、4学級が減っている。中学校では普通学級で113名増えている。61学級から63ということで、2学級が増えて

いる。中学校の113名の増加の内訳として見ると、前年度、6年生がやはり多くて、70人ほどが中学1年に上がってきている。また、裏面の私立の中であるが、国公立から市立に希望した者が40人ほど出ている。それで100前後の差があるかと思われる。この市立に希望というのについては、学級編制を行っていく中で、転入者の方などと一定聞き取りをしているが、その中で、市立中学校の希望がかなりあった。

1学級の平均児童・生徒数を見ると、小学校では33.3人、昨年は32.4であった。中学校では34.1人、これも昨年は33.3人、学級で1人弱増えている。小学校で見ると、三小で、1学級増えているが、全体では4学級、小学校が減っているという状況である。中学校では緑中学校で2学級増えて、全体で2学級増えたという状況である。

それから、特別支援学級については、小学校で2人増えているが、一小の梅の実も、二小のさくらも2学級のままである。また、中学校の身障学級についても2人増えているが、学級数は2のままということである。

裏面の私立学校等に入学した新一年生の調べである。19年度は小学校で66人が私立学校等に入学している。新1年生全体の7.1%を占めている。また、中学校では215人が入学しており、全体の21.7%。私立学校等への入学で見ると、16年度からの傾向を見ると、小学校では9.1%、8.8%、7.5%、今年度の7.1%と、暫時減少傾向にある。中学校については、23.6%、25%、27.2%、そこで増加傾向があったが、この19年度で21.7%と減少しているところである。これについて、先ほどお話ししたような形で、小学校では前々から市立の希望が増えているが、中学校についても19年度で市立希望が5%ほど出てきているのかなと、そのような状況に見えている。

以上である。

伊東委員長

ありがとう。

ご感想はあるか。

伊藤委員

いいことだなと思う。

伊東委員長 学務課長、中学校の、今、21.7%、昨年が27.2%、その前の年は何%か。

福田学務課長 その前が25%、その前が23.6である。

伊東委員長 ありがとう。
中学校はうれしいことである。やはり教育長先生、また、指導室の皆さんのおかげで、給食もおいしいし。

福田学務課長 やはり先ほどお話ししたように、聞き取り、学級編制の関係があるので、それぞれのところとは電話でやりとりするが、そういう中で、市立の中学校についての問い合わせであるとか、そういうのもやはり目立っている。

伊東委員長 ありがとう。
報告事項2、寄附の収受について。

福田学務課長 例年、市民の皆様から寄附をいただいて、学習活動に使わせていただいている。18年度もごらんの9点があった。例年のことであるが、19年度入学の小学校新1年生に対して、交通安全用のランドセルカバーが880枚、東京小金井ライオンズクラブさんからである。学習用の下敷き970枚、東京都トラック協会さんからいただいた。なお、これは早速入学式で配布させていただき、既に使っている。書籍類については、モンゴルの大草原を旅した記録の写真集を、全小・中学校及び市立図書館にいただいている。これはご本人が文を書かれて、写真を撮られて、外国への夢というのか、そういうものを子どもたちに知ってほしいというお話があり、ご寄附いただいた。また、東中学校については電子ピアノ、国語辞典、漢和辞典それぞれをいただいている。また、校庭の芝生化への参考図書というようなことで、小・中に「芝生のすすめ」というのをいただいた。また、公民館のほうでは、集会室で活用してほしいということで、座布団をいただいて、これも活用させていただいている。
以上である。

伊東委員長 ネット武蔵野という会社は、どういう会社か。

福田学務課長 多分、そういう方向性の業績の高い会社ではないかと推測している。

伊東委員長 芝生屋さん。芝生屋さんというのはないか。

福田学務課長 詳しくは調べていない。

伊東委員長 寄附についてはいいか。
報告事項3、教育課程の届出報告及び小・中学校の年間予定についてに移る。

風見指導主事 平成19年度教育課程届出等についてご報告する。
平成19年3月6日から3月20日にかけて、市立小・中学校14校の教育課程を受理した。今年度の教育課程の作成に当たっては、特に次の3点を重点とした。1点目は、特別支援教育実施に向けた校内体制の整備。2点目は、小学校英語活動等を通じた国際理解教育の推進。3点目は、いじめの早期発見、早期解決に向けた校内体制の確立である。具体的な取り組みの位置づけを図るように、事前に各学校に指導してまいった。各学校とも、その学校の実態や実情に応じて教育課程に反映させていただいている。今年度も市立小・中学校においては、特色ある教育活動が展開され、地域に開かれた安全な学校づくりを目指して教育の充実が図られてまいるようにする。
以上である。

伊東委員長 今の中で、ちょっと質問だが、国際理解教育についての資料はあるか。特別ないか、きょう。

風見指導主事 つけていない。

伊東委員長 それは、これからどのように開かれていくのか、おわかりになる範囲で結構であるので、ご説明願う。

風見指導主事 本年度から、小学校の五、六年生で英語活動が行われるようにな

る。その英語活動ということだけでなく、それを通して国際理解、あるいは他地域の言葉や文化について学習をしていくという形で、国際理解教育を推進していこうと考えている。

伊東委員長 いつから始まるのか。

風見指導主事 5月の後半から小学校五、六年の英語活動は実施する予定である。

伊東委員長 講師についてはどのようなお考えか。講師はお願いしないのか。

富士道
指導室長 小学校五、六年生については、昨年度、前原小学校で研究指定をして行ったが、実際のネイティブの英語を使える外国人講師を派遣するというので進めさせていただく。

伊東委員長 ほかにあるか。

伊藤委員 感想でもいいか。

それぞれ小・中学校、校長先生を中心に特色ある教育活動が組み立てられているなどと思った。小金井の教育の目に見える向上があるのもこういうことなんだというふうに承知させていただいた。書き方に教師の立場に立って文言を書いているときと、児童・生徒の視点に立っているものがあり、それぞれおもしろいなどと思った。

あと、先ほどの読書活動推進計画が策定されていることを踏まえると、読書について書かれている必要があるのかなということが一つ、それが授業やその他では行われているが、教育課程の届けに一言あってよかったかなという感想が一つ。

もう一つは、やはり教員資質向上にかかわり、教員の資質を向上するための研修活動を行っていくと書いてあるのが、中学校は全部あったと把握させていただいたが、小学校では、現実に行われていることは別として、1校しかなかった。やはりその点は、小金井の教員資質を向上させるために一文あってよかったかなと思っている。感想である。

富士道 補足していいか。

指導室長 本日は提出していないが、実際、提出の文書の中には、読書年間

指導計画を全部添付させている。したがって、各学校では、年間の中での読書活動として、作文コンクール等も教育委員会で実施しているので、そういうものを踏まえて、年間の指導計画については策定をさせている。また、教員の研修についてであるが、ご指摘の点がある。ぜひまた改善をして、来年に向けて努力をしてまいりたいと思う。

以上である。

伊東委員長

よろしく願います。

報告事項4、小・中学校教育管理職の異動について。

富士道
指導室長

報告事項4の資料をごらんいただきたいと思う。

今年度、小学校では校長が3名、副校長が5名、そして中学校では校長2名の異動があった。詳細は別紙の資料のとおりである。今年度もよろしく願います。

伊東委員長

報告事項5、図書館別館の使用要綱について。

田中図書館長

報告事項5の、市立図書館別館の使用要綱についてご報告する。

市民の自己啓発、学習の推進、支援及び図書館関係団体の活動援助のため、平成18年度予算にて、図書館本館の南側に図書館別館を建設し、3月26日に完成し、5月1日に開館予定である。

図書館別館の概要であるが、軽量鉄骨づくりの2階建て、建築面積は71.79平米、延べ床面積121.65平米となっている。1階部分は59.74平米、駐輪場として29台分のスペースがあり、管理員詰所、エレベーターホールがある。2階部分が学習スペースとだれでもトイレとエレベーターホールで61.91平米である。学習室部分については47.5平米となっている。そこに学習机15台、いす45脚を設置の予定である。あと、エレベーター以外に外階段も設置している。

次に、要綱の概要である。開館時間については、午前10時から午後5時までで、利用は無料とする。使用に当たっては、個人使用と団体使用に分けており、個人使用については、金曜日、土曜日、日曜日、祝日として、団体使用は火曜日、水曜日、木曜日とする。使用に当たり、個人使用については先着順とする。また、団体につ

いては、図書館関係団体に限らせていただき、本要綱には盛り込んでいないが、使用希望団体については、事前に図書館のほうに団体登録をさせていただこうかと考えている。

次に、管理体制については、シルバー人材センターに委託をし、管理員は個人貸し出しの金曜日、土曜日、日曜日、祝日の開館時間帯に、学習室の管理、清掃、駐輪場の整理を行うとともに、管理入室にモニターを設置している。それで定期的に巡回をしている。

次に、予算措置であるが、平成18年度当初予算にて建設をした。歳出合計については、2,658万6,000円であった。うち歳入として、まちづくり交付金などを受け、これが2,084万の交付金を得ている。この建物を維持するための平成19年度予算であるが、歳出合計として232万5,000円を予定している。

説明については以上である。

伊東委員長

ご質問、あるか。いいか。

報告事項6、「小金井市における今後の特別支援教育のあり方について（答申）」について、願います。

風見指導主事

「小金井市における今後の特別支援教育のあり方について（答申）」についてご報告する。

平成18年4月から平成19年2月にわたり、学芸大学の高橋教授を委員長とする小金井市特別支援教育推進検討委員会が設置された。検討委員会は月に1度、合計11回開催され、2月に答申案を発表した。市ホームページにも掲載され、パブリックコメントを募集し、多くの方から意見が寄せられた。このたび、3月に改めて小金井市における今後の特別支援教育のあり方について（答申）が発表されたので、本日この場で配付させていただく。

以上である。

伊東委員長

ありがとう。

ごらんになっていかがか。

報告事項7、その他に移る。その他はあるか。

田中図書館長

図書館では、蔵書点検を行うが、その特別休暇についてご報告させていただく。

これは、2年に1遍、図書の蔵書が合っているかどうかという点検を行っている。ことしはその年に当たっており、平成19年6月1日から6月11日が本館、これは本館と分室を分けて実施する。東分館と緑分館については6月11日から6月15日、西之台図書室については6月1日から2日、移動図書館あおぞらについては6月3日から6月4日に実施する。

内容であるが、機械による点検作業である。全蔵書について点検を行う。あとは書架の整理である。きちんと分類順に整った書架にする。それから開館準備を行う。

周知の方法であるが、市報こがねいの5月15日号に掲載する。あわせて図書館のホームページも5月15日にアップする。館内ポスターの掲示及び図書館各施設にポスターを掲示する。都立多摩図書館及び各市町村図書館への周知を行う。休館日カレンダーを配付し、レシートに休館日カレンダーを印字するような形で工夫をする。以上である。

伊東委員長

その他、あるか。報告、特にないか。

報告事項8、今後の日程について、願います。

淀川庶務
課長補佐

教育委員会の今後の日程である。

4月11日、午後6時からもえ木ホールにおいて教育委員会の歓送迎会を予定している。4月12日、午後2時から東京都教職員研修センターにおいて東京都教育施策連絡会がある。全委員の出席を予定している。4月26日木曜日、午後2時から東京自治会館において東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会が開催される。委員長の出席を予定している。5月8日、午後1時30分から801会議室において第5回教育委員会を予定している。5月17日木曜日、午後1時から静岡県富士市の文化会館において関東甲信静市町村教育委員会連合会総会及び研修会があり、全委員さんの出席を予定している。5月18日金曜日、午後2時から東京自治会館において東京都市町村教育委員会連合会総会が開催される。こちらも全委員さんの出席を予定している。5月29日火曜日、午後1時30分から801会議室において第6回の教育委員会。続いて、7月10日火曜日、午後1時30分から801会議室で第7回の教育委員会を予定している。

以上である。

伊東委員長

あした、教育委員会の歓送迎会である。

報告事項は終わった。

本日の審議はすべて終了した。

これをもって平成19年第4回教育委員会定例会を閉会する。ありがとうございます。お疲れさま。

閉会 午後2時47分